

うれしくなる言葉

桑野小学校 三年

乃一 晴大
のいち はるひろ

（敬称略）

ぼくは運動が大好きです。みんなといっしょにおにごっこをしたり、ボールを使ってサッカーをしたり、休み時間はいつも楽しく遊んでいます。だから、みんなから、

「はる君、何でもできるなあ。すごいなあ。」と言われるのが、とてもうれしいです。

ある日、体育の学習で鉄ぼうをすることになりました。ぼくは、鉄ぼうも大好きです。前まわりおりやこうもりなどのわざを見せました。みんなからはく手をもらって、「やったね。」と心の中で思いました。次に、さか上がりを見せることになりました。ぼくは、さか上がりぐらいかんたんにできると思っていました。でも、いざしてみるとできませんでした。もう一回ちようせんしてもできませんでした。その時A君が、

「はる君、さか上がりもできんの。こんなかんたんやのに。」

といいました。A君は、くるとさか上がりができます。ぼくはくやしくて、何度も練習をしたけれど、やっぱりさか上がりはできません。他の友達も、

「はる君、さか上がり、まだできんの。」

といいます。ぼくは、なきそうになりながらすみっこで練習していると、B君とC君が、「はる君、いっしょに練習しよう。」

といってくれました。B君とC君は、さか上がりができます。二人は、ぼくにさか上がりのできるアドバイスをしてくれました。それは、心の中で、ぼくはさか上がりができると伝え続けることだそうです。それから、いつも心の中で、「ぼくはさか上がりができる。」と思い続けながら練習しました。でも、やっぱりできません。そんな時、B君とC君は、「はる君、もうちよつとだよ。」

「あきらめんと、がんばってみ。」

と、はげましてくれます。その言葉は、くじけそうになるぼくの気持ちを立ち上がらせてくれます。そして、もう一度、心の中で「ぼくはできる。」と思いながら、えいっと地面をけりました。すると、とうとうさか上がりができました。まわりにいた友だちみんなが、はく手してくれました。B君とC君も、

「やったな。はる君。すごい。」

といって、ハイタッチをしてくれました。ぼくは、とてもうれしくてジャンプをしました。はく手をしてくれた友だちの中には、A君もいて、ニコニコわらってはく手してくれていました。

さか上がりができたのは、B君とC君のおかげだと思います。あの時のA君の言葉は、とてもいやな気持ちになつてつらかったけれど、B君とC君のやさしい言葉があったからぼくは、がんばれたと思います。「いっしょにしよう。」って、なんてすてきな言葉なんだろうと思いました。人を傷つける言葉はかんたんにでてくるけれど、「いっしょにしよう。」という言葉は、意しきしないとでません。これからぼくは、友だちを傷つける言葉よりも、うれしくなる言葉を使っていきたいです。